

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：山手保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：渡辺 由美	定員（利用人数）：64名（72名）
所在地：横浜市中区山手町124	
TEL：045-622-7403	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1972年6月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市	
職員数	常勤職員：13名 非常勤職員：14名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：園長 1名 保育士：18名
	保育士：主任 1名 調理員：3名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	1～2歳児室：1室 鉄骨造り1階建て 3～5歳児室：3室 建物延床面積：1,206㎡ 調理室：1室 園庭：845㎡ 地域子育て支援室：1室

③ 理念・基本方針

【保育理念】

- ・子どもたち一人ひとりが自分を「かけがえのない存在」と感じ、自信を持って生きていけるように、ありのままの姿を認めていく。
- ・子どもの人権及び主体性を尊重し、子どもの幸せに生きる権利を保障する保育を、保護者及び地域と一体になって行っていく。

【保育方針】又は【基本方針】

- ・子どもの興味、関心に基づいた遊びの環境づくりを行う。
- ・散歩や園庭で自然や地域の方々と触れ合いながら、戸外で心も体ものびやかに育っていけるようにする。
- ・子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、自信と意欲が育つように保護者と協力し合っていく。
- ・子どもたち同士が育ち合い、学び合う環境を作っていく。
- ・地域や子育て家庭に対する支援、地域に開かれた子育て支援拠点を目指す。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

山手保育園は、JR根岸線山手駅よりバス6分の場所にあり、閑静な住宅街の中にあります。坂の中腹に位置しており、子どもたちは坂を上り下りしながら、「港の見える丘公園」などに散歩に出かけています。

山手保育園は横浜市立保育園として、1972年(昭和47年)6月に開設されました。敷地面積は1206㎡で、鉄骨造り平屋建てです。1、2歳児室、3歳児室、4歳児室、5歳児室があり、各部屋から直接園庭に出ることができます。別棟には事務室と地域に開放している育児支援室があります。

【園の特徴】

園目標は「のびのび いきいき 笑顔あふれる保育園」です。70名規模で家庭的な雰囲気の中、異年齢の関わりも大切にしています。近くの「港の見える丘公園」など横浜らしさのある場所に散歩に出かけています。

公立保育園の強みを生かし、行政機関等と連携して養育支援につなげています。育児講座・保育体験・施設開放等を行い、地域の子育て環境の促進に取り組んでいます。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年7月1日（契約日） 2021年1月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもたちの発想を大切にする保育

子どもたちがクラスの中で自由に発言し行動しています。職員は耳を澄ませ、子どもの言葉や気持ちを出来る限り受け止めて、子どもたちの発想を保育に生かせるように工夫しています。

5歳児の米作りではバケツで稲を育て、刈り取り、脱穀、もみすり、精米、炊飯を体験しました。途中で絵本をヒントに案山子を作ったり、お米の数を数えたのは子どもたちのアイデアでした。一連の作業の中でクラス全体が大きな達成感を体験できました。お楽しみ会のテーマについて子どもたちがアイデアを出し合い、実行しました。収穫したサツマイモのつるで作ったリースに、育てた綿花を飾るアイデアを出し合い、施設の高齢者にプレゼントし交流を楽しみました。お店屋さんごっこで、5歳児が小さい子に買ってもらいたいとアイデアを出し合い、1、2歳児は買ったごちそうをままごと遊びで楽しんでいます。3、4歳児は庭で見つけた謎の球根を水栽培で育て、芽が出てくると図鑑で調べ、何センチ伸びたと楽しみにしています。

2. 保育の質を向上させるための多くの取り組み

園内研修を積極的に行っています。保育理念等の研修は複数回開催し、全ての職員が参加しました。保育ウェブ（様々な意見を相関図にして可視化する）の手法を用い、課題はどこにあるのかなど、それぞれが意見を出し合っています。

園内公開保育を行いました。数人の職員が他のクラスの保育を観察し、各自がドキュメンテーション（活動の様子を写真とコメントで見える化）を作成しました。ドキュメンテーション作成の理解とともに、様々な視点があることを体感しました。

各自が職位や興味に応じた研修計画を作成し、園外の研修にも積極的に参加しています。研修の内容は会議で発表し、共有しています。

3. 様々な工夫をした保護者向け情報発信

幼児クラスでは毎日の保育日誌に保育中の写真やエピソード、子どもたちのつぶやきなどを書き込んだドキュメンテーションを活用しています。ドキュメンテーションをファイリングし、保護者や子どもも見ることができます。5歳児のドキュメンテーションには幼児期に育ててほしい10の姿が色別シールで示されていて、保育のねらいや、子どもたちの今育っている姿を保護者に具体的に伝えています。

コロナ対策として、消毒が終わったおもちゃの箱には「済」のカードを貼っています。職員にとって分かりやすくするための工夫ですが、保育園の取り組みが可視化されて保護者の安心感につながっています。

ミーティングノートに食物アレルギーの対応、明日のクラス活動、明日の予定、伝達事項、ケガなどクラスからの連絡事項が簡潔かつ的確に記載され情報共有されています。また引き継ぎノートを活用し、迎えに来た保護者に確実に情報が伝わるようになっていきます。

◇改善を求められる点

1. 地域子育て支援事業計画に関する園の役割・取り組みについて情報発信の継続を

毎年、山手保育園育児支援計画を作成し、地域の子育て支援事業に取り組んでいます。保護者を含め地域に対して、これら支援事業計画についての園の役割や計画に関する情報発信を今後も継続し、園庭開放、交流保育、育児支援室の利用率向上など地域貢献に取り組むことが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審にあたり、改めて本園の保育を見直し、よりよい環境を作るきっかけにしたいと思いました。園の自己評価作成は園内研修の一環として全職員で取り組み、意見を出し合いまとめました。第三者評価の取り組みを進める中で職員一人ひとりが主体的に考え、連携していきながら保育を見直し、園内研修のアイデアが出てきたことに頼もしさを感じましたし、第三者評価の意義を感じました。

子どもたちが心と身体を動かして主体的に遊べる環境を作ることに力を注いできましたので評価委員会の方に本園のこども主体の保育実践を高く評価していただけたことはとてもうれしいことでした。常に保育園を温かく見守り、ご協力くださる保護者の皆さまに日々の保育を伝えて語り合いたい、という思いからのドキュメンテーションや写真掲示でしたが、新型コロナウイルス感染症対策の中で行事などの変更や中止が多い中、不安払拭につながったと思います。

今年度は感染症対策のため育児支援事業が休止することが多く残念でした。今後も感染状況を踏まえ、地域における子育て支援事業についても地域および園の保護者に対して情報を細やかに発信し、利用率の向上など地域貢献に努めたいと思います。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり